

学習習慣と基礎学力の定着を目指した 放課後学び場 寺子屋



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
豊前市立 大村小学校	大村小学校学校運営協議会 令和2年3月14日 設置	地域学校協働活動推進員 1名 1名 地域コーディネーター 1名 1名	大村小学校 地域学校協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

少子高齢化に伴って地域の過疎化が進み地域社会のつながりが希薄になりつつある。そのため、地域に愛着を持った子どもや地域の将来を担う人材を育てるためにも、学校と地域が連携・協働し、課題解決に当たっていくことが必要不可欠である。

目標や目指す姿(学校)

学習の楽しさを体感させるとともに、学習意欲を喚起し、家庭での学習習慣の定着を図れるようにする。
さらに、「学習習慣の定着」及び「学習意欲の喚起」を行うとともに、「決まりをまもる」、「挨拶をする」、「姿勢を正す」などの規律についても定着を図るようにする。

目標や目指す姿(地域)

“地域による子育て”として実施するため、地域住民との協働で運営し、子どもたちに安全・安心な環境で多様な活動をする機会を提供する



大村小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 地域学校協働活動推進委員
- 元PTA会長
- 保護者・PTA関係者
- 地域活動指導員
- 学校関係者(高学年担任等) など、計 8名で構成
- 元区会長 年間平均 4回程度開催

効果的な運営の工夫

学校とボランティア支援員のパイプ役として、元校長先生に地域学校協働活動推進員をお願いし活動を行ってもらっている。また、地域住民とも連携し、学校に地域の力を届ける仕組みを構築している。
運営協議会では、児童の成長や成果を情報共有し、指導する側のやりがいを高めることにつなげている。このことが地域活性化につながっている。さらに、学校職員の働き方改革をめざし、地域・家庭・学校の役割分担を明確にする会議も行っている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

少子高齢化が進む中、「地元へ愛着を持ち、地域の未来を担う子ども」を育成するため、また、児童の基礎学力を定着させるため、地域・学校・家庭のそれぞれがどのような役割を果たすべきかを学校運営協議会にて熟議。「できることから始めよう」というコンセプトのもと学校運営協議委員の助言や意見を学校運営に反映させ①放課後の空き教室の活用、②基礎学力定着を図ることを確認する。



地域学校協働活動

放課後学習支援「寺子屋」を主体とし、地域コーディネーターの指導のもと、放課後の空き教室を活用して、授業で学んだことや宿題を振り返りながら復習することで、確かな学力を身につけ、自信を持てるように行った。併せて、挨拶やきまりなど躰も取り入れていった。



「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会の活動を地域の活性化や地域住民の成長につなげるため、学校行事・地域行事を把握している元区長、地域にある学校に詳しい元校長や元PTA会長に委員を担ってもらっている。学校と地域が目標やビジョンを共有して連携・協働する一体的推進を図るために、運営協議会の実態に即した特色ある取組を推進し、子供の自尊感情を育てることを共通認識し、課題に取り組みを行った。また、地域学校協働活動が協議会の目的に沿うよう、地域コーディネーターが授業参観し、目標達成に必要な情報を学校運営協議会で共有している。

取組

成果・効果

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が一体的に推進することによって、「寺子屋」の活動が「子どもの地元への愛着や、将来必要な資質・能力を育む」という目標を持って活動を行え、学校と地域が連携・協働し、地域を活性化させる原動力になっている。「寺子屋」の活動を越えて、子どもたちが地域の住民と接する機会が増え、地域に対する愛着も高まり、地域イベントへの積極的な参加が促進され、「バードウォッチング」・「どんと焼き」などの地域行事を盛大に行うことができた。また、「寺子屋」の活動においても、地域ボランティアの参加が増加し、放課後の宿題だけでなく、「あいさつ」、「きまりごと」など躰についても、活動を通して学ぶ力を身につけることができた。更に、卒業生がジュニアリーダーとして豊前市が開催する中高生の生活体験学習や社会体験活動に参加し、新しい時代のボランティアリーダーの育成にも寄与できている。子どもたちに、人と人とのつながりの大切さや地域の魅力を感じ取らせることができた。

